

筑西あらかると



書家・浅香鉄心の作品を寄付

鉄心夫人の栄子さんが、しもだて美術館に

筑西市出身の書家で、日展常務理事などを務めた浅香鉄心（昭和元年〜平成9年）の作品が、鉄心夫人の浅香栄子さんから、しもだて美術館に寄付されました。寄付作品は、いずれも日展出品作である『寒山詩』と『是崑崙』、『吾家』の3点。これらの作品は、しもだて美術館が所蔵・管理し、今後開催する常設展などで展示する予定です。



『吾家』第29回改組日展
平成9年（1997）



『是崑崙』第28回改組日展
平成8年（1996）

おいしい梨をめしあがれ 市内で梨の出荷始まる



7月上旬から、市内で梨の出荷が始まりました。梨は、米や紅小玉すいかなどとともに筑西市の主要な農産物のひとつ。旧関城町と旧下館市の南西部を中心に生産されていて、それぞれ県の銘柄産地に指定されています。現在出荷しているのは、3月中に花あわせを行ったハウス栽培の『幸水』。その後、露地栽培の『幸水』『豊水』『新高』の収穫が始まり、8月をピークに10月上旬まで出荷が続きます。

甦る青春の日々 あけのミュージックフェア



7月9日、明野公民館イルブリランテで、『あけのミュージックフェア・甦る青春の日々パート11』が行われました。明野地域を中心とする市内在住者などで構成された3組のバンド、パイオニアズレンジ、クラッシャーズ、マインド40が出演。楽しいトークを交えながら、懐かしいベンチャーズサウンドやグループサウンズ、フォークソングなどを演奏し、満員の観客がステージを楽しみました。

暮らしを考え、まちを知りたい、みんなの広場

■開館10年記念特別展『仏師 錦戸新観の世界』

9月4日(日)まで 月曜休館
下妻市ふるさと博物館〔下妻市TEL0296(44)7111〕
入場料 = 一般200円 小中高生100円

■46億年のタイムカプセル 南極大陸から未来がみえる

9月25日(日)まで
月曜休館(9/19は開館、9/20は休館)
茨城県自然博物館〔坂東市TEL0297(38)2000〕
入場料 = 一般720円 高大生440円 小中生140円

■セネガル国立民族舞踊団

8月27日(土) 午後6時30分開演
茨城県立県民文化センター〔水戸市TEL029(241)1166〕
入場料 = S席5,000円 A席4,500円

■小椋桂『歌談の会』

9月4日(日) 午後6時開演
栃木県総合文化センター〔宇都宮市TEL028(643)1010〕
入場料 = 全席指定4,500円

■親子のためのクラシックコンサート『音楽の絵本』

9月4日(日) 午後2時開演
つくばノバホール〔つくば市TEL029(852)5881〕
入場料 = 全席指定500円(3歳から入場可)

■フィンランド放送交響楽団

10月20日(木) 午後6時30分開演
茨城県立県民文化センター〔水戸市TEL029(241)1166〕
入場料 = S席7,000円 A席6,000円
B席5,000円 学生席2,000円

わが家のアイドル

1歳のお誕生おめでとう



みなかわ れなちゃん
8月2日生(倉持)



ほそや ゆうりちゃん
8月5日生(中館)



みやしま いっせいくん
8月5日生(一本松)



おおさき まなかちゃん
8月6日生(舟生)



こもり はなちゃん
8月7日生(伊佐山)



くろかわ かのちゃん
8月8日生(玉戸)



おおくら あいりちゃん
8月10日生(新治)



いわかく あゆむくん
8月12日生(南町)



すぎやま さくらちゃん
8月12日生(女方)



こうだ かのんちゃん
8月13日生(門井)



はまさき あくとくん
8月13日生(幸町)



おにざわ しゅうとくん
8月14日生(笹塚)



わたなべ ゆらくん
8月15日生(西方)



おじま あゆかちゃん
8月16日生(蓮沼)



すどう えりかちゃん
8月16日生(幸町)



ひろせ ななちゃん
8月17日生(一本松)



たかた にっきちゃん
8月18日生(南町)



ほづみ れいかちゃん
8月18日生(海老江)



うえの りんたろうくん
8月20日生(下川島)



たけいしりゅうすいくん
8月20日生(幸町)



こいけ はづきちゃん
8月21日生(小川)



しちた なあとくん
8月23日生(二木成)



おじま ひなちゃん
8月24日生(榎生)



こばやし たけるくん
8月24日生(下川島)



なまい こんちゃん
8月25日生(南町)



ほづみ じゅなちゃん
8月25日生(玉戸)



ほりえ つばさちゃん
8月26日生(下川島)



さかもと しょうへいくん
8月29日生(幸町)



すぎやま あつみくん
8月30日生(野殿)



いしい まちちゃん
8月30日生(下中山)



あおき しゅんすけくん
8月31日生(松原)



ふるいち まあやちゃん
8月31日生(南町)

平成16年10月生まれのお子さんの写真を募集しています。写真裏面に、住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、保護者氏名を明記のうえ、8月31日(水)までに市広報広聴課へ。応募多数の場合は抽選となります。

6年生が描くわたしの夢、このまちの未来。

村田小学校



わたなべ ゆうた
渡辺 悠太

公務員になって、人々が安心して暮らせるまちを作りたい。たくさんの人とふれ合える、明るいまちにしたい。



おおし くみ
大吉 空見

体育の先生になって、生徒に体育の楽しさを教えてあげたい。花や樹木を大切に、緑輝くまちを築きたい。



ひき ひでおき
比気 英明

料理人になり、おいしくて体にいい料理をみんなに食べさせてあげたい。緑のきれいな美しいまちを作りたい。



うえの きみか
上野 貴美賀

保育園の先生になり、小さい子にいっぱい優しくしてあげたい。障害者の人も仲良く暮らせるまちにしたい。



はしもと たかみ
橋本 理史

医者になり、病気で困っている人を治してあげたい。リサイクルを進め、ごみがなくてきれいまちにしたい。



つかだ ゆり
塚田 友理

パティシエになり、みんなが笑顔になるお菓子を作りたい。誰にでもあいさつをし、人との輪を広げたい。



おおし たつや
大武 徹哉

みんなが驚くようなプレーができるプロ野球選手になりたい。子どももお年寄りも笑顔でいられるまちにしたい。



たかはし みさ
高橋 美沙

保育士になり、小さい子に楽しい遊びを教えたい。人の心がきれいで、みんな笑顔の筑西市にしたい。



いじま なおや
飯島 直哉

橋下弁護士みたいに、人の役に立つような弁護士を目指したい。ごみを減らし、川をもっときれいにしたい。



さとう めぐみ
佐藤 芽久美

たくさんの人に元気や感動をあげられる、ピアニストになりたい。誰もが優しい心を持つるまちを作りたい。

竹島小学校

日ごろ暮らしの中で思っていることを投稿してください。匿名可。市広報広聴課へ。

おたより

公園で花火はマナー違反

私の家の近所に公園があります。散歩コースに寄っていく人もいれば、キャッチボールする親子、小学生のはしゃぐ声が聞こえることもあります。ところが困ったことがあります。年に何回かですが、夜になると公園の方から、パンパンと大きな音がする事があるのです。どうやら若い人たちが打ち上げ花火をしているようです。公園はみんなのもの。他にだれもいないからといって花火を打ち上げるのはマナー違反です。火事の心配もあって危険だし、眠っている人がいたら安眠妨害です。公園はマナーを守って使ってください。
(匿名・男性)

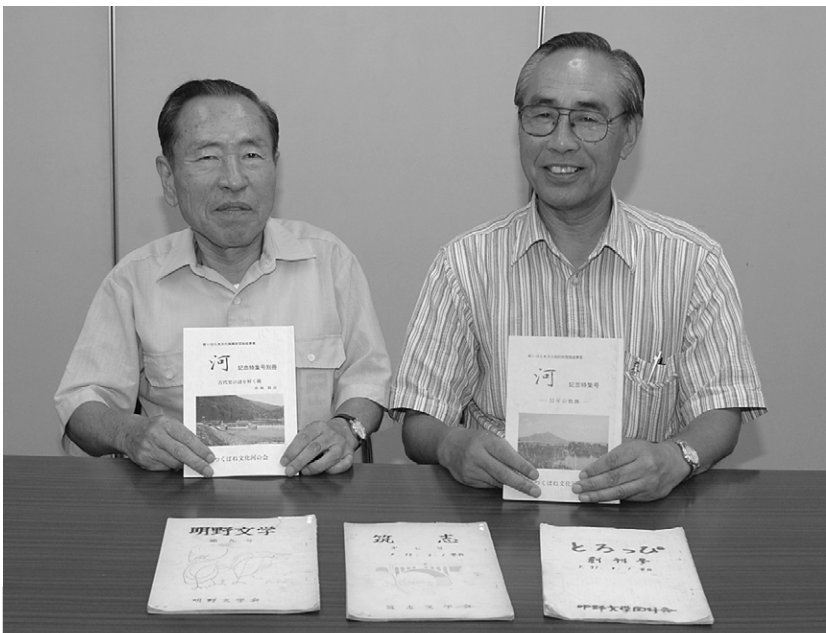
今年も楽しみ、祭りの季節

こんにちは。僕はお祭りが大好きで、いつもこの季節になるとわくわくします。去年の下館の祇園祭りはすごかったですね。駅前には身動きがとれない程の人、人、人でした。今年も盛り上がると思います。僕も楽しませてもらいます。(匿名)

スナップ

たくさん遊んで 元気に育ってね

7月21日、協和多目的研修センターで、筑西市地域女性団体連絡会協和支部主催の子育て支援イベント『ほっとスペース』が開かれました。子どもと保護者など約20組、計50人が参加。風船や積み木遊びなどをして、楽しい時間を過ごしました。



きくち ひろし
菊地 博さん（松原）

よどなわたけし
淀縄 武さん（寺上野）

菊地さんは、「子どもたちが本を読む機会が少ないのが残念です。もっと本に親しみ、文芸に接する喜びを感じて欲しいと思います」と、語ってくれました。

淀縄さんは、「日本人の心情を美しく表現する言葉、日本の風土が作り上げた素晴らしい日本語を、文芸離れの若い人たちにも再認識していただきたいですね」。

人

ひと

文芸に寄せた55年の熱き思い 『つくばね文化河の会』 記念誌を発刊

「初代会長の稲葉白明（義司郎）は、筑波嶺詩人と呼ばれる横瀬夜雨の一番弟子で、2代会長の木村信吉は最後の門下生。『河の会』は、夜雨の流れをくむものです」と語るのは、明野地域在住者などで構成する文芸サークル

『つくばね文化河の会』（稲葉昭一会长 80歳・中上野）の副会長である淀縄武さん（72歳）と会員の菊地博さん（71歳）。2人は昭和25年の同会発足時から会員で、このほど発刊された機関誌『河』記念特集号の編集に、その中心となって携わりました。

2冊の特集号の一冊は、新旧会員による短歌や俳句、川柳、詩、小説などを収録した『記念特集号』55年の軌跡。もう一冊は、会員の赤城毅彦さん（74歳・赤浜）が過去に『河』へ寄稿した文章をまとめたもので、郷土の民俗や偉人などを紹介した『記念特集号別冊』古代史の謎を解く鍵です。